

あいあいあい

I eye 愛

2026 年
10 月号



9/10 パン工房わ・は・わ見学会（しおさい地区）



あいシテル
i-coop original brand

「いつものパン」に込められた「あい」と希望

「あいコープのPB商品学習会

しおさい地区担当理事 萩原 晃世

商品の背景にある思いや、つくる人の顔、産地が抱える課題を知り、言葉を交わすことで、「つくる人」と「食べる人」とのつながりが生まれます。それが、あいコープの「PB学習会」と「生産者交流」です。しおさい地区委員会では9月10日、職員による「コアサイクル活動（※）」と合同で、社会福祉法人みんなの輪のパン工房わ・は・わを見学しました。

パン工房では、利用者さん一人ひとりの得意なことや体調に合わせ、作業を分担しています。売り上げは利用者さんの工賃となり、収益が出たときには賞与として還元されます。「障がいがあるから買う」のではなく、おいしいから選ぶ、食べる。その日常の買い物が、結果として、つくる人の働く喜びや暮らしを支えることにつながっています。

製粉室では、地元のお米を米粉にし、パンづくりに活用。米ぬかや規格外米、パンの耳は養豚の飼料となり、農家、福祉事業所、生協、組合員がつながり、地域で資源が循環していました。

見学で紹介されたのが、元あい

コープみやぎ理事長で前みんなの輪理事長の吉武洋子さんの「生協の中に福祉があるのではなく、福祉の中に生協がある」という言葉です。困ったときには支え合い、障がいのある人もない人も、誰もが安心して暮らせる地域をつくる。みんなの輪を生み出した、あいコープの精神を表す言葉だと感じました。

その精神を形にした一つが、「みんなのi食パン」です。「安心して食べられる、おいしいパンがほしい」という組合員の願い、それを実現したい生協の思い、利用者さんが力を発揮できる場をつくりたいという、つくり手の思い。三者が意見を出し合い、試作を重ねてつくり上げました。

組合員の願い、生協の思い、つくり手の力を重ね、一人では実現できないものを、みんなで形にしていこう。「みんなのi食パン」の歩みに、生協が大切にしてきた「たすけあい」の姿を見ることができました。この思いを、これからも育てていきたいと思っています。

※コアサイクル活動・・・主に入協5年未満の職員が、商品や産地、あいコープの取り組みについて部署を越えて学び合う活動。

CONTENTS

- | | | | | | |
|-----------------|----|----------------------|------|-----------------------|----|
| ▶たねまきプロジェクト・章取り | …2 | ▶あいコープみやぎ 2030 年ビジョン | …4-5 | ▶安定ヨウ素剤配布会 | …7 |
| ▶『放射線と健康』学習会 | …3 | ▶(新連載)心にごちそう 本のれすとらん | …6 | ▶生産者さんにあいに行こう みやぎのあられ | …8 |

8/9(日)

天童トライりんごオーナー活動【最終摘果】



悪天候のため7月下旬から2週間遅れ、密集して枝に付いているりんごの間引き作業を行いました。雨は多いものの、今のところ大きな天候の崩れもなく生育は順調。所々赤くなつた大人のこぶしくらいのりんごがたくさん付いており、重さで枝が折れているものも見られました。生産者さんによると、りんごの摘果にハサミを使うと枝や実が傷付いてしまうとのこと。受粉がうまくいかなかったため左右の形のバランスが悪いりんごや、肌が傷ついているりんごをゆつくり丁寧に持ち上げ、ひとつずつ地面に落としていきました。



落とすのがもったいない…(涙)

どのりんごを間引こうかな、と戸惑っている親子連れを見つけると、生産者さんが優しくアドバイスしてくださる光景も。間引き前は鈴なりだったりんご同士の間隔が空き、おひさまの光や風が通りやすい枝ぶりになりました。小一時間程、次第に気温も上がる中での作業でしたが、木陰で暑さをしのぎ涼を感じつつ、オーナーさん達は各自のペースで取り組めた様子でした。

本紙を編集中の現在、毎年恒例のりんご園地見学バスツアーを週末に控えています。次号ではツアーの様子をお届けする予定です。



収穫が楽しみ♡
マイりんご

理事 藤田 紀子

8/23(日)

たねまきプロジェクト 「小豆に再び土寄せしました」

たねを採り、たねを繋ぐ活動も今年で9年目となりました。1回目2回目に引き続き、今回も雨の中の作業、秋保ゆうきの会の畑でたねから育てている小豆に2回目の土寄せです。普段使い慣れていない鍬やレーキを使ってみなさん優しく丁寧に作業をしました。雑草の繁茂を防ぎ、苗を丈夫にする土寄せはいいことづくめ。秋保の小豆もますます元気に大きくなることでしょう。

また、生産者の渡辺さんが「ヤブツルアズキ」のたねを持参してくれました。これは小豆の先祖とのことで、今の小豆よりも小さくて黒い粒でした。「縄文人は



種まきから1カ月半で
こんなに大きく成長



もうすぐ花が咲きそうな
小豆



ヤブツルアズキが美味しかったのでしよう。より大きくて綺麗な赤いたねを何代も何代も選抜し続けた結果、今の小豆になったんだと思います。現代人はたねを通じて縄文人と繋がっているのですね。」とのお話にロマンを感じました。

外国原産の作物が多い中、小豆は数少ない日本産の作物だそうです。お話を聞いて、ますます小豆が愛おしくなりました。

11月の収穫までは手をかけずとも、土と雨、自然の力が小豆を育ててくれます。自然の恵みと渡辺さんに感謝しつつ楽しみに待ちたいと思います。

理事 櫻井 洋子

9/13(日)「放射線と健康 2026」

青山浩一先生 学習会報告

福島第一原発事故から15年が経過した現在、被ばくと健康被害の因果関係が曖昧にされたまま、避難指示の解除や帰還政策が進められています。今回、鹿児島に避難してきた母子を継続的に診察しておられる医師、青山浩一先生をお迎えし、主に放射線による健康影響についてご講演いただきました。日曜日の開催ではありましたが、会場18名、オンライン7名の参加があり、みなさん熱心に耳を傾けていました。



青山浩一先生
院長 青山浩一氏

【参加した委員さんの感想】

青山先生の講演を聞き、私たちが毎日口にする「食べる」ということが、命や健康そして未来につながっているのだと改めて強く感じました。放射線によるDNAの損傷や子どもへの影響、ワクチン、農薬、食品添加物など、知らなければ見過ごしてしまう問題について考えさせられ、衝撃を受けまし



ユーモア溢れる先生を囲んで

た。同時に、あいこープがこれまで大切にしてきた「食の安全」「命を守る食」を求める活動は、決して間違っていないのだと再認識できました。

食を大切にすることは、自分や家族の健康だけでなく子どもたちの未来を守ることに繋がります。そして、命を大切にしながら暮らせる社会をつくることは、争いや対立を減らし世界平和にもつながるのではないかと感じました。先輩方が築いてきたあいこープの理念を受け継ぎながら、私たちも学び考え声を上げ協働しながら、より良い未来へつないでいきたいと思いました。

脱原発エネシフ委員会 齋藤 陽美

《連載》2025年ビジョンをふり返る

くあんな進展・こんな成果く

03

「環境」くゆたかに

2025年ビジョンのふり返り報告、第3回目は「環境(ゆたかに)」。

■被害者にも加害者にもならない暮らしを求めて(担当理事より報告)

〈脱原発エネシフ委員会〉福島第一原発事故から15年が経ち、政権は原発の「最大限の活用」に舵を切りました。女川原発再稼働など逆風の中、脱原発の旗を降ろすことなく、安定ヨウ素剤の配布会や「子どもに原発事故を伝える会」、省エネ生活を広める「鍋布団」作りなどに精力的に取り組みました。

〈石けん環境委員会〉シャボン玉フォーラム in みやぎを開催(23年度)した

ほか、学習会や石けんモニターなど組合員に石けん生活を広める活動を継続的に行いました。暮らしの脱プラや有害化学物質にも目



シャボン玉フォーラム in みやぎ
(2023. 9. 30)



メイクリンなど、毎回大人気の「鍋布団」作り講習会！

を向け、他団体との協同で運動を進めました。

■検討会での意見(一部)

・脱原発委員会は活発に活動しているが、組合員に伝わっているか？職員は？何のために活動しているのか、基本を伝える必要がある。

・あいこープは石けん派生協だが、組合員の石けん利用率が数%しかないことに驚いた。良いものなのに浸透していないと感じる。

・プラスチックについては、事業側でももつと減らせないか(納豆のラベル、ペットボトル、シッパのビニール袋など)

・食べ物には有機などを求めるのに、洗剤は合成洗剤というのは矛盾している。

↓次回は「つたえる(協同の力)」

副理事長 石井 朱里



次の5年も「つながり・はぐくみ・ゆたかに・つたえる」



生活協同組合
あいコープみやぎ

2030年ビジョンがスタートしました！

【人】つながり～人と人がささえあい、安心な地域社会をつくる

1. **ジョイケアシステム**の理念や意義を改めて学び、広く伝え、組合員と地域にたすけあいの風土を育みます
2. あいコープから生まれた**社会福祉法人「みんなの輪」**との協業や交流を通して、障がい者支援の輪を広げ、地域福祉を推進します
3. **人権**を尊重し、**平和**を守る社会を目指します
4. **福祉委員会(仮称)**を立ち上げ、ジョイケア・地域福祉・平和と人権の活動を活発に行います



小さな100円を大きな力に
(ジョイケアシステム)



商品供給だけじゃない！
(社福)みんなの輪との深い
パートナーシップ

【食】はぐくみ～より自然で安全な食を守り育てる

1. 組合員と生産者の想いが重なる商品づくりと伝わる紙面づくり、組合員があいコープの食を学ぶ取組みを通して**利用を結集し、持続的な生産**を守ります。
2. 私たちの望む食を持続可能なものにしていくために、「**産地直結**」の運動と**資源循環**の取組みを生産者とともに推進します



生産者を支え、生産者に
支えられ…産地とともに！

体験型の組合員活動を
これから



資源循環型農業への挑戦
(農法研究会)



健康、経済、環境…
これからの安全安心って？



2026～2030年までの事業と活動の道標、「あいコープみやぎ 2030年ビジョン」が通常総代会で承認され成立しました。組合員・生産者・職員が約1年間話し合いを重ね、2025年ビジョンのキャッチフレーズを引き継ぎながら、今の課題に正面から向き合うビジョンにまとめました。概要をご紹介します。(編集部)

2030年ビジョンの全文を掲載したパンフレットを2026年10月に全組合員へ配布・HP公開予定です▶▶



【環境】ゆたかに～自然と調和した循環型のくらしをめざす

1. **原発のない社会**を目指し、省エネと再生可能エネルギーの推進により、事業と暮らしのエネルギーシフトに取り組みます
2. 生協運動の原点に立ち返り、有害化学物質を削減するために**石けん運動**と**脱プラスチック**を進めます



合成洗剤よりも水を汚さない石けん生活は生協運動の原点です(石けん環境委員会)



東日本大震災と
福島第一原発事故
を忘れません



省エネ生活の知恵を発信
(脱原発エネルギーシフト委員会)

【協同の力】つたえる～いきいきと学びあい、あいコープの輪を未来に伝える

1. 地域に根差した活動という原点を大切にしながら、より多くの組合員にとって**利用しやすく参加しやすい生協**を作ります
2. つたわる情報発信と丁寧な仲間づくり活動を通してあいコープへの共感の輪を広げます
3. 「人・食・環境」に関わる問題解決のため、他団体とともに学び、行政へ働きかけます
4. **日の出町センターの増築計画**を着実に進め、2028年度の稼働と経営計画達成のため事業と活動が一丸となって取り組みます
5. あいコープの理念を次世代へつなげるため、組合員、生産者、職員が2030年ビジョンを共有し推進します



2030年に向け
組合員・生産者・職員の輪と
地域や他団体との協同の力で
進みます

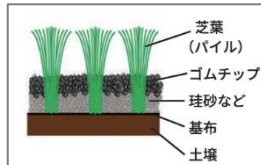


9/12 プラスチックによる体への影響を学ぶシンポジウムに参加

9月12日、「有害化学物質から子どもを守るネットワーク」主催で「ここまでわかってきた！プラスチックのからだへの影響」と題されたシンポジウムがオンラインで開かれ、岐阜大学大学院の下畑享良先生(脳神経内科医)から、人体からの検出が確認されているマイクロ・ナノプラスチックについて講演がありました。血管や脳から実際にプラスチックが検出されており、原因となっている数多くのプラ製品から身近な「紅茶のティーバッグ」と「グラウンドの人工芝」が挙げられたことに脅威を感じました。個人で避けるだけでなく、企業や行政に働きかけて根本を減らすことが必須だと感じました。

理事長 鈴木 真奈美

〈人工芝の断面図〉



人工芝のパイルやゴムチップに有害化学物質が含まれている

9/12-13 日本母親大会 in 宮城

第71回日本母親大会が今年は宮城県で開催され、「食と農業」の分科会に理事が参加しました。東京大学大学院の鈴木宣弘教授が「36%の自給率でよいのか？世界で一番最初に飢えるのは日本」と題して講演し、宮城県内の生産者と市民からも話題提供がありました。「令和の米騒動」の背景には、農業者が激減し食べ物が国内で作れなくなっている背景があるとし、政策に訴えるとともに、食と農を守る取り組みを地域から始めることの大切さを確認しました。

副理事長 石井 朱里



500名の会場はほぼ満席

わだいの
たねまき





型にピタッと入れる作業
は職人の技

表紙でもご紹介した地区委員
会によるPB商品学習。仙
南地区では今年度「発酵バター
香るしあわせフィナンシェ」を
テーマに、生産者の社会福祉法
人みんなの輪わ・は・わ大衡
を見学しました。

しあわせフィナンシェはわ・
は・わ大衡の皆さんと組合員が
2019年に共同で開発した、
PB「あいシテル」商品唯一の
お菓子です。外はサクツ、中は
しっとりしていて、発酵バター
の香り高い贅沢な美味しさ。そ
の製造にはわ・は・わ大衡の利
用者さんの力が存分に生かさ
れています。製造サイクルや工
程、衛生面において、随所に利
用者さんへ分かりやすい工夫
があり、ベテランの利用者さん

「発酵バター香るしあわせフィナンシェ」 商品学習 8/10仙南地区委員会



絵入りのカード
で誰にでもわか
りやすく



バターの香りが
漂います…



が行う型入れの作業などはも
はや職人技。職員の皆さんの
細やかなサポートと思いやり
で、みんなが生き生きと働け
る場所だと感じました。

フィナンシェの製造はまんま
通信で注文を受けてからの完
全受注生産のため、計画を立て
てやすくロスが少ないことの
と。あいコープとみんなの輪の
協同の力で、人にも環境にもや
さしい商品づくりができてい
ることを嬉しく思いました。

仙南地区委員長 青木 綾子



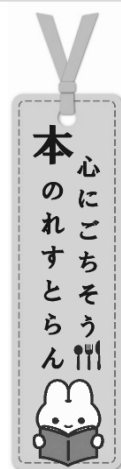
『本のれすたらん』
はおよそ3カ月に1
回、年4回の発行
です。お見逃しな
く！

「本のれすたらん」はNPO法人とうほ
く食育実践協会の食育コンダクターが紹
介している本のチラシです。体も、こころ
にも、「食」は生きることに「食」を合
言葉に、「食」にまつわる本を皆さんに紹
介して、ぜひ読んでもらいたいと始めた
活動です。

「食」にまつわる本を探していると、「環
境」にも「平和」にも「社会問題」にも繋が
つていきます。様々な角度から、これらの
問題に真剣に、時には楽しく取り組んで
いる「本」を紹介しています。

活動をしていく中で、昨年、とうほく食
育実践協会が監修し「あそんで学ぼう 季
節の野菜とお花 食育カードゲーム」がで
きました。毎回「本のれすたらん」で紹介
しています。仙台青葉学院短期大学の学
生さんが発案した、四季折々の野菜とそ
れらの花の絵が描かれたカードで、絵合
わせなどのゲームができます。トランプ
として遊ぶこともできます。ゲームをし
ながら野菜の旬や花を楽しんで学んでみ
てください。

とうほく食育実践協会理事 斎藤 郁子



〈第1回〉

組織概要

(2026年8月分)

【組合員数】	20,586 名
【供給高】	239,026 千円
【一人実利用高】	5,915 円/週
【出資金】	1,476,666 千円

センター増築計画関連

▼建物施工業者案につ
いて協議・決定した▼政
策金融公庫借り入れの
ための仮申請について承
認した

2026年9月8日(火)

▼PBソース焼きそばソ
ースリニューアルを承認し
た▼2026年度理事
会予算を承認した▼た
ねと食とひと@フォーラ
ム連続講座協賛について
承認した▼水保70年展
への参加費補助について
承認した▼「令和の百
姓一揆 in みやぎ」協賛
について承認した▼肉ま
つり2026企画を承認
した

理事会議事録抄



●白くなっていてびっくりした。手軽にできたので家でもやりたい。シャボン玉があまりできなかったのは砂糖分が足り
なかったから？ (石巻地区「石けんで上靴を洗おう」参加者感想より)

安定ヨウ素剤配布会・県への要望書提出

脱原発・エネシフ委員会では今年も鹿児島市のますみクリニック院長・青山浩一医師のご協力をいただき、9月12日に利府市リフノスにて安定ヨウ素剤配布会を開催しました。

最初に青山先生より、『原発災害から甲状腺被ばくを避けるために』と題して、現在の原発の稼働状況や原発災害に備えるポイント、安定ヨウ素剤を備えておく理由と服用の仕方などを丁寧に話いただきました。

その後、医師による問診、ヨウ素剤のお渡しに進みました。今回は直前に体調不良などで参加できなくなった方から「次の機会を」との声をいただき、あらためて継続して開催する意義を実感しました。



問診の様子
今年は延べ61名の方に安定ヨウ素剤を配布しました



県原子力安全対策課
千葉課長(右)に
要望書を提出

この日に先立ち、委員会では9月9日、県庁へ「希望者への安定ヨウ素剤事前配布に関する要望書」を提出しました。原子力安全対策課の方に理事長より要望書を手渡しし、その後主旨説明、県の現在の対応について伺いました。出席者より、原発が稼働して住民が不安に思っている実状、安定ヨウ素剤の備蓄状況やいざというときの配布体制についての質問や要望を伝え、安定ヨウ素剤の服用には適切な時があることを確認し、希望者には事前に配布すること、備蓄の場所についての工夫、そして何より国の指示を待たずに県民の生命を守る自治体としての動きに期待する旨を伝えました。あいこープみやぎ独自に配布会を実施する一方で、こうして要望や意見を伝える活動についても進めていく必要を感じました

理事 向所千夏

私のオススメ商品



私がおすすめする商品はまるご食品さんのだしパック「プロの味」です。奥ゆきのある豊かな香りと深い旨みがある料理が作れます。通常よりも素材の粒子を細かくすることで、短時間で美味しいだし

がとれるようにと、ご家庭での使い勝手まで考えてつくられました。様々な料理に使えば、素材本来の旨みが生きた「だし」のおいしさを実感できます。 事業部 供給課 北 哲也



編集後記

渇水に苦しんだ昨年からの夏、長雨が続いている今年の夏。稲刈りシーズンに入り、あいこープ組合員の農業体験や援農活動の現場も天気予報に一喜一憂する日々です。田んぼはどうかな？畑や果樹園はどんな様子だろう？産地が気になる組合員も多いのではないのでしょうか。

11月7日(土)はW a! わあ祭り。今年はいあいこープ日の出町センターが会場です。多くの生産者が出展しますので、試食や交流を楽しみにぜひお運びください。

副理事長 石井 朱里

委員さん募集中！

あいこープの仲間と
食のこと
環境のこと
一緒に話しませんか？

お問い合わせ先
☎ 0120-255-044
Fax 0120-849-324
Email i-kumikatsu@mamma.coop
(担当：組合員事務局)



ジョイケア NEWS

ジョイケアシステムは、あいこープみやぎ独自の地域福祉政策で、組合員全員の拠出金(100円/月)によって成り立っている助け合いの仕組みです。社会福祉法人「みんなの輪」、NPO法人「お茶っこケア」、ビッグイシューへの支援など、地域福祉にも役立てられています。個人で利用できるサービス(ささえあい/たすけあい/集団託児/慶弔/出産/電話相談)もあり、組合員同士の助け合いやケアメイトによる集団託児なども多く利用されています。

ジョイケア利用状況 (2026年8月分)

ささえあい(保障)	0件	(商品の動物被害への補償など)
たすけあい(ケア)	14件	(ケア時間 合計 23.5時間)
集団託児	4件	(利用延べ人数 6名)
慶弔	8件	(出産祝い 4件 お悔やみ 4件)
電話相談	6件	(キャンセル除く相談実施件数)
計	32件	

組合員が利用できる電話相談

お申込み・お問合せは
ジョイケア事務局へ

☎ 0120-50-7277 平日 9:00~17:00

年金相談・11/10(火) 社会保険労務士 清野道子氏
13:30~15:30

法律相談・11/10(火)、11/18(水) 弁護士 倉林千枝子氏
13:30~15:30

子ども相談・11/26(木) 宮城教育大学准教授 三科聡子氏
10:30~12:30

*介護相談は相談日のご希望を伺います。

介護相談 (ケアプランセンター木もれび 山崎彰子氏)

▼随時受付可能です。各相談窓口前週の金曜日までに予約して下さい。▼金曜日が祝日の場合は直前の平日の受付時間まで受付します。▼予約して頂いた方には、相談日に相談員からお電話を差し上げます。



●子供が産まれてから出来るだけ自然なもの(無農薬のものなど)を口に入れたいと思っていましたが、ネオニコチノイド系農薬を使わずに果物を作る難しさを初めて知りました。(天童トライリンごオーナー活動感想より)

大切にしたいのは宮城生まれのお米の味 家族ぐるみで営む田舎のあられ屋さん

創業50年「(株)みやぎのあられ」さん。海と里山に囲まれ、稲刈り目の田んぼが広がる景色の中、モダンなれんのかかる店舗を訪ねました。

店先に並ぶ様々な商品ラインナップは工場長である亮平さんのアイデア。あられの原料米「みやこがねもち」はもち米の王様と言われ、コシと甘みのある風味で宮城県を代表するもち米です。みやぎのあられさんは店



オリジナル味は小さな四角
定番味は長方形

舗のある亘理町内に合計1haの自社水田を持ち、もち米作りから手掛けています。

精米後に浸水したもち米をせいろでふかし、大きな機械で搗き上げます。冷やし固めた餅を伸ばし、裁断した生地は専用のハウス内で何と天日干し！これは一般的な工場にはないこだわり

だそうです。「天候に左右されるのは農作業と同じ」と美智代さんは言います。総重量4キロの網を振って天地返しをするのは職人技だそう。お天気の良い日にぜひ拝見したいものです。この後、高温で短時間焼成。冷ました後は茶箱で保存し、出番が来ると、主に県内産の良質な材料で味を付けます。ついバクバク食べてしまう海苔巻きですが、1枚ずつ手作業で仕上げ



300℃で焼き上げると、
素焼きあられのできあがり



海苔巻き作業を編集部が体験！

る様子を見学し、これからはしっかり味わって食べようと心に決めました。工場長の父親の代から始めたあられ屋を家族ぐるみで守り続けている石田家。「今日はあいコープさんの配達日、楽しみ」とお話された尚子さんの笑顔が印象的でした。



工場長

石田亮平さん

石田美智代さん

石田尚子(しょうこ)さん

いつもみやぎのあられをご愛顧くださりありがとうございます。あいコープさんとのお付き合いは、我が家が組合員になったことから始まりました。当初からどの商品も美味しく、安心して食べられるものばかり。弊社も添加物を使わず、宮城県の素材を中心に商品を作っていることから、まさにあいコープさんにお取扱いいただくのに相応しいのでは…と思い立ち、ご担当者あてにお手紙を書いた、というのが今に至るきっかけです。これからも同じ組合員として消費者の目線に立ち、美しく、安心して楽しく召し上がっていただける商品づくりを続けていきたいと思っています。

今後の予定

11/7 土



今年はずっと違うお祭り！テーマは「あいコープ文化祭」

場所／あいコープみやぎ日の出町センター屋外スペースおよび建物内

時間／11：00～14：00 入場料／小学生以上 500円

未就学児未満 無料

「絵画・写真コンテスト」作品募集中★

応募者全員に100ポイント(100円分)プレゼント！

(1) 絵画・デザイン部門

テーマ「未来のあいコープ」

A3サイズ以内、画材指定なし

あいコープ賞1作品(5000ポイント進呈)

Wa!わ祭り賞2作品(1000ポイント進呈)



(2) 写真部門

テーマ「人」「食」「環境」のいずれか

上位3作品(3000ポイント進呈)

※(1)(2)とも生成AIの使用不可



↑応募方法
など詳しく
はこちら

《締切》10/23(金)に延長決定！

お問い合わせは組合員事務局へ

0120-255-044 月～金 9:00～17:00

あいコープみやぎは女川原発の稼働停止と
核燃料の乾式貯蔵施設建設中止を求めます

女川原発の再・再稼働から

2024年10月29日再稼働し
不具合による停止を経て11月
13日に再稼働しています

692 日目

停止を
早く

2026年10月1日現在